

# 自 己 評 価 票

## 【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

## 【自己評価の実施方法】

- 運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください
- その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
- 優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

## 地域密着型サービスの自己評価項目の構成

	項目数
I 理念に基づく運営	22
1 理念の共有	3
2 地域との支えあい	3
3 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4 理念を実践するための体制	7
5 人材の育成と支援	4
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1 一人ひとりの把握	3
2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1 その人らしい暮らしの支援	30
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入年月日	平成 21 年 1 月 10 日
法人名	医療生協かわち野生活協同組合
代表者名	理事長 高橋 泰行
事業所番号	2775004647
サービスの種類	認知症対応型共同生活介護
事業所の名称	グループホームかわち野
ユニット名	2階
所在地	東大阪市加納1丁目9番21号
記入者名	管理者 久保啓子
電話番号	072-698-6560

# 自己評価票

(   部分は外部評価との共通項目)

↑   取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>			
<b>1 理念と共有</b>			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		医療生活協同組合の事業所として、利用者も含めて、組合員一人ひとりを尊重する理念を掲げている。職員は、会議や日常の活動の場において、基本としての理念を管理者より強調されている
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		上記理念を共有し、個々人を尊重しながら、利用者一人ひとりに合わせた対応を、日々実践している
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		施設主催の秋祭り等の種々の催しに、地域の人々も参加して頂いている
<b>2 地域との支えあい</b>			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている		お向かいの空き土地を駐車スペースに提供して頂いており、来客時にお借りしている
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		参加行事 (節分祭・盆踊り・夏の夕べ・だんじりパレード・獅子舞・餅つき等季節の行事) 地域小学校主催の行事等
6	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	会議等の議題に掲げて、事業所として貢献できる事はないか、話し合いの場を持ちたい。こども110番の避難場所の協力はしている
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		意義を理解し、評価を活かした改善に取り組んでいる。家族アンケートは、日頃、聞けない生の声を聞くことができ、改善の参考になり、有り難く思っている
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		毎回、取り組みの報告は行っている。利用者の家族の参加もあり、率直な意見を伺い、サービスの向上につなげていくようにしている
9	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる		地域包括センターとも情報の交換している。研修や講習に参加したり、会議で出た意見等も取り入れて、サービスの向上に役立っている
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している		地域権利擁護制度に関しては、利用者に対象者が居るため、担当者から直接に話しを聞く機会もあり、理解しているが、成年後見制度は、今後、学ぶ機会を設けて理解を深め、必要時に支援ができるようにしていきたい

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項	目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が、虐待防止研修会にも参加している。言葉かけにおいても、注意を払うよう心がけている		研修後は職員会議の中で報告学習会を行い、職員全体の共有意識を高めている

**4 理念を実践するための体制**

12	○ 契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている	契約時の説明終了後に、必ず疑問点等を尋ねるようにしている。又、利用者やご家族等が質問しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱（虹の箱）を設置したり、直接、訴えが出来るやすい環境づくりを心がけ、意見や苦情、不満の訴えがあった時は、必ず職員全員の認識とするために、連絡ノート等に記入している	○	運営推進会議で、もう少し記入しやすく、という提案があった「虹のカード」の改善を検討したい
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書の短信予定欄に近況を綴り、必要に応じて個々に、家族の来訪時や電話にて直接、口頭等で報告し、ご家族の意向もよく聞くようにしている	○	短信だけでな、施設だよりも継続していきたい
15	○ 運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱（虹の箱）を設置したり、国保連合会のPRポスターも掲示している。直接訴えが出来るやすい環境づくりを心がけ、意見や苦情、不満の訴えがあった時は、必ず職員全員の認識とするために、連絡ノート等に記入している		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く機会を常に設けている。会議時を始め従事中でも即、反映できる内容等はすぐ反映させ、検討が必要な内容の場合は、会議の議題に載せ全員で検討し、サービスの向上に繋げている		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	夜勤以外は、複数体制をとっており、柔軟な対応が出来るようにしている。職員の勤務希望は、出来る限り聞き入れており、勤務しやすい職場づくりを行っている。		状況の変化や要望のある場合は、定期、不定期にケアカンファレンス等で検討し柔軟に対応している
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	年間を通じ異動は無く、離職も少ないので、ダメージも比較的少ない		

**5 人材の育成と支援**

19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護意識レベルを上げるために、外部研修・講習に意欲的に複数で参加している		受講のために勤務を調整している。研修後は職員会議の中で、報告学習会を行い職員全体のスキルを高めている
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業事業所とは親しく交流しており、お互いに情報交換や運営上の困り事があれば、相談をしている		

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる		利用者の介護度が重度になった場合など、ストレスを軽減するために1階と2階の職員が交替して従事する協力体制をとっている
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		年1回の定期昇給や、年2回の賞与もあり、勤務意欲に繋がっている。資格取得のための情報提供や、協力も行っている

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

### 1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人からの意思表示が難しい場合は、家族も同席の上で、両者の思いを聞くようにしている	
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		サービス開始後にも、家族からご本人に対する思いや、事業所のサービスに対する感想を聞くようにしている	
25	○ 初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		話し合いの状況に応じて、対応している	
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している		納得して頂けるように、ゆっくりと説明している。出来るだけ入居前の生活リズムや環境に近い形を維持し、馴染みややすい雰囲気をつくり、本人との会話を重視しながら進めている。	馴染んで頂くために、日帰りを数日続けてからサービスを開始する場合もある。又、家族が初日などに一緒に泊まって頂く場合もある

### 2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		全員が家族の一員と考えて話し合うようにしている。食事の準備を一緒に行ったり、テレビなどを見たりする生活のなかで、本人の知識や経験を職員に語り伝えることで、生き甲斐や活気を持って頂いている	
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		来訪時などに、本人の様子を伝えながら、出来るだけ本人も交えて談笑するようにしている	受診時、施設から医療機関が遠い場合や、本人や家族の意向により、家族に同行して頂いている。生活雑貨等の不足分も届けてもらっている
29	○ 本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している		出来るだけ面会に来て頂けるよう依頼している。本人の希望があれば、家族に電話をしていただいている	
30	○ 馴染みの人や場との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないう、支援に努めている		馴染みの人に対しては、訪問時間の制限はしていないので、できるだけ来訪を呼び掛けている。場所は事業所の付近であれば、本人と共に訪れるようにしている	

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		日常会話が困難な利用者が多い場合は、レクリエーション（歌やボール投げ）などで、利用者全員が楽しんで頂ける様な工夫をしている
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		転移先に面会に行ったり、契約終了の家族が、時々、訪問して下さる

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		一人ひとりの思いに違いがあるため、職員が会議等で検討し、意思統一して、個々人の意向に沿えるように努めている	
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		本人から話を伺うのが困難な場合が多く、出来る限り家族からも情報を収集して、把握に努める	アセスメント後、職員間で話し合いを持つようにしている
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		個人記録や、申し送りノート・口頭伝達などにより、把握に努めている	

#### 2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		一人ひとりについて、職員の看取りを集約して作成している	計画表も家族の意見感想欄を設けたものに、変更した
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		ご本人、ご家族、関係者との話し合いで、作成している	計画内容が、大きく変更になった場合には、事前にケアカンファレンスを開催している
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		毎日、記録を個人別に記入しており、実践や介護計画の見直しに役立てているが、紙面に限りがあるため、気づきの部分を反映しづらい場合がある	○ 職員の気づきが簡単に記入出来るような、様式の採用も考えている

#### 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		可能な限り支援をしているが、出来て居ない場合もある	
----	--	--	---------------------------	--

#### 4 本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している		地域の組合員等が、ボランティアとして、訪問してくれる	演芸会、演奏会、外出助セラピードッグ・菊花鑑賞施設主催の催しのお手伝いなど
----	--	--	----------------------------	---------------------------------------

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		かかりつけ医受診の場合は、当事業所が支援、職員の同行により、受診して頂いている。かかりつけ医以外はの受診は救急以外においては、家族に依頼している
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している		
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		近々に退院された利用者の病院関係者と、数回にわたり電話や直接面談にて相談や情報交換を行い、家族にも経過報告した
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		本人の状態に応じ、必要ならケアカンファレンスを開き、全員で方針を共有することになっている。退院後重度化のため転倒の危険性が大きいので家族とも相談しながら、見守りやリハビリの協力を依頼し協力を得ている
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている	○	今後、支援が必要な場合が生じてくるかと思われるので、早い段階での検討を行い、事業所としての方針を確立しておきたい
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	-----------------------------	-----	----------------------------------

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と利用者との関係が、長くなるほど対応には十分注意をしている	
51	○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	特に、思いや希望を表出しにくい利用者については、職員から声をかけて、本人が行動に移しやすいような環境を作るようにしている	口答で意思疎通が難しい時は、身振り、手振りも交えて説明しながら伝えて、出来るだけ本人に解っていただけるようにして、本人の意思を尊重し、出来ることをして頂いている
52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の介護は、どうしても職員の都合を優先しがちになるので、個々の利用者のペースに合わせて、希望に沿った支援が出来るよう職員同士が注意を払いながら、「待つ」ことの大切さを伝えているが、実践されない時もある	○ 介護の上で、非常に大切なことでもあるので、会議時の学習等で、今後も取り上げて、職員の基本姿勢として浸透していくような勉強会を行いたい

(2) その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援

53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望を優先、支援している。理美容は、希望があれば望む店に、無ければ訪問理容を利用している	パーマを希望される時は、近隣の美容院に行かれる。生活習慣で毎日外出用の衣類を着用されている場合、洗濯時は別洗い（手作り）している
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や、片付けを手伝って頂いているが、利用者が固定しつつあるので、他の利用者にも手伝って頂けるよう努めている	利用者の誕生日の日には、好みの料理をお聞きし、手作りしている
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	出来るだけ希望に沿えるよう支援をしているが、希望に沿えていない時もある	
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、気持ちよく排泄できるように支援している	個々の利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、日中は出来る限りトイレでの排出が出来るように支援をしている	
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全面を考慮して、基本的には、いちばん職員が多い日中は13:00~15:00に時間帯を定めているが、希望があったり、尿や便失禁で洗身等の必要性がある場合は、その都度対応している	
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	個々の利用者の生活習慣に合った生活を送って頂くために、居室への出入りは自由にして頂いている。逆に、孤立しがちな利用者には、状況を見ながら時々、共用の場へ来ていただけるように声かけ誘導をしている	

(3) その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援

59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の利用者の趣味や、関心事に応じた支援をしている	
----	--	---------------------------	--

( 60-64 部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している		金銭管理の出来る利用者には、各自が所持して管理して頂いている。管理出来ない場合には、お小遣い程度の金額なら事務所で預かりしているが、大半は、施設で立て替えて利用料と共に請求をしている	お仏壇を祀っておられる利用者には仏花を、一緒に買いに行く。雑貨類や嗜好品も一緒に買いに行く
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		天気の良い日は、出来るだけ多くの利用者に外出を促し、支援している	外出好きの利用者とは、天候に関係なく、買い物や散歩に出かける
62	○ 普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		年間を通して、遠足や遠くの公園などに外出している。(遠出の時は車を利用している)	春は遠足で「海遊館」に、家族と共に出掛けた
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している		電話は、利用者がかけたい時にかけていただいている。手紙も自由にやりとりして頂いている。宛名書き等の困難な利用者には、職員が代筆している	本人が、自らかけるのが困難な時には、職員が援助しながらかけて頂いている。手紙は、今年は本人の写真入りの年賀状を、出来る限り自筆にて、家族に送付して頂いた
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している		面会時間の制限を設けず、玄関も施錠していないので、何時でも訪問して頂けることを、お伝えしている	

(4) 安心と安全を支える支援

65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		理解して身体拘束をしないケアに、取り組んでいる	
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		居室や日中は、玄関に鍵をかけていない	
67	○ 利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している		個々の利用者の身体的状況や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の危険性があつたり体調不良の利用者が居られる時は、夜間は定期巡回以外にも巡回している。又、居室ではなく職員がすぐに対応できるよう、共用の和室に床を設置する場合もある
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		共用の場や居室においても、利用者の状態に応じて、物品の保管・管理に注意を払っている	
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		ひやりハットは、記録して職員全員が回覧し、注意を喚起している	誤飲の危険性のある小物類は、手の届く所に置かないようにしている
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている		心肺蘇生やAEDの使用方法の講習を、定期的に行うようにしている	電話の近くに緊急時の通報手順を掲示している。心肺の蘇生やAEDの講習を施設内で行い、利用者にも参加していただいた

( [ ] 部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	消防署の指導により利用者も施設外に避難をする訓練を実施し、消火器を使用しての模擬消火も、参加職員全員がおこなった。地域の協力を得られるよう立地条件も勘案しながら働きかけていきたい
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		リスクの高い利用者の家族には、実情を説明し理解をしていただき、移動時の見守りや、歩行リハビリを手伝って頂いている

(5) その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援

73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		バイタルチェック表で血圧や体温等を確認しながら、異変に気付いた時は、速やかに医療機関等を受診する等の対応をしている
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	○	バイタルチェック表の服薬欄には、服薬を確認した職員のサインをして、別の職員が再確認している。薬剤師による薬の内容についての学習会も企画して行きたい
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		排便確認は、水分排泄表で確認している。便秘の訴えが困難な利用者には、排便間隔をチェックし、定期的に自然排便が出来るように支援している。無理な場合のみ下剤を服用して頂いている
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている		歯磨きが困難な利用者には、うがい等で対応している。支援後はバイタルチェック表の口腔ケア欄にチェックを入れて、確認している。入れ歯は就寝前には水や洗剤に漬けていただいている
77	○ 栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		確認は水分・排泄表にて確認している。生活習慣により、湯飲みではなく飲み慣れた食器で、水分摂取をしていただいたり、本人の横でこまめに水分補給を促したりと、工夫をしながら支援している
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ・疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)		感染症関係の研修には、職員が毎年交替で参加している。研修後会議の学習会で報告し、知識を共有している
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		

2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		玄関の施錠はしていない。玄関にはインターホンやチャイムを設置しており、来訪された時には、すぐ対応出来るようにしている。季節の花などを植えて、明るい雰囲気になっている
----	---	--	--

(   部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項	目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ清潔を心がけている。居間の壁面には、季節感を味わえる飾り付けを工夫している。季節の生花なども生けている。テレビの音も適度を心がけている		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。テーブル席とソファの席があるので、思い思いに利用して頂いている		
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、本人の使い慣れた道具や家具類を配置して過ごして頂いているが、日中は大半の利用者が共用の居間などで、過ごしておられ、テレビや会話を楽しんで居られる。掃除は、本人に確認了承を得ながらしている		
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめに行っている	24時間通して、換気をしている。温度調節もエアコンや床暖房で配慮しながら、行っている。冬場は、乾燥しやすいので、湿度も配慮している。脱衣室は、特に寒いので、ストーブも併用して調整している		

(2) 本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○ 身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している	廊下・トイレ浴室などには手すりを設置している。廊下・リビングなど移動の多い場所には、障害物を置かないようにして、移動しやすいように配慮している		
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は、一人ひとりについて、工夫している		
87	○ 建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に家庭菜園や花壇を造り、季節の物を利用者と一緒には植えて楽しんでいる。野菜は収穫して利用者に味わっていただいている。又、パンの屑などを捲いて、雀など鳥が来るのを見て喜ばれている		ベランダには、家族や地域の人から頂いた柿を利用者と一緒には、干し柿にして吊し、美味しくいただいている

V サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼすべての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができています。	○	① ほぼすべての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入して下さい)

家庭的な雰囲気を大切にし、毎日の予定は細かく定めず、自由に過ごして頂けるようにしています。笑顔が一番の元気の源。明るく・楽しく・穏やかにをモットーに、一人ひとりの出来ることはして頂き、出来ないことはスタッフと共に、単調な毎日にならないよう心掛けています。「かわち野」に来て、良かったなと思っていただき、元気に過ごして頂けたら嬉しいです・